

# あいち農産物生産流通レポート

平成22年2月号

情報サロン		
・ちょっと一服、お茶をどうぞ	(園芸農産課).....	1
地域トピックス		
・JAあいち海部のトマト選果施設、イチゴ苗増殖施設が完成 しました	(海部農林水産事務所).....	2
東日本情報		
・世界が注目する革新的な冷凍技術	(東京事務所).....	3
西日本情報		
・農商工連携ビジネスフェアが開催されました	(食育推進課).....	5
フラワーページ		
・第59回 関東東海花の展覧会が開催されました	(東京事務所).....	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) .....		8
・名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し .....		9
花 き		
・切花・鉢花の2月の見通し(県内市場) .....		2 1
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2009年11月) .....		2 5
関連指数 .....		2 6

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

## ちょっと一服、お茶をどうぞ

- 知れば知るほど奥の深いお茶の世界へようこそ -

本県は、西三河地区と東三河地区を中心に個性豊かなお茶が生産されています。

特に、西三河地区のてん茶（抹茶の原料）は全国有数の産地で、平成21年2月には全国初の抹茶に特化した地域団体商標「西尾の抹茶」が登録され、地域ブランド名を冠した新たな商品開発も進んでいます。

さて、普段から馴染み深いお茶ですが、ここではあまり知られていないお茶の豆知識をご紹介します。

### 豆知識1

煎茶、抹茶、紅茶、烏龍茶の原料はどう違う？

それぞれ茶種毎の原料があるわけではなく、実は全て同じお茶の木の葉です。

茶種名の違いは加工方法などによるものです。



愛知と言えば抹茶

### 豆知識2

お茶の色はとってもカラフル！！

私たちが普段飲んでいる緑茶や紅茶には「緑」や「紅」と言った色を表す言葉が使われています。これはお茶を淹れた際の色と思われがちですが、それだけではないのです。

お茶には、茶葉を加工する際に茶葉の持つ酸化酵素による発酵等の有無と度合いにより以下のように色分けされています。

	特 徴	代表的な茶種等	主な産地
リョウチャ 緑茶	製茶加工の際に発酵を行わない無発酵茶で、日本で最も一般的なお茶です。	煎茶、抹茶、玉露、ほうじ茶	日本
シロチャ 白茶	製茶加工の際に少しだけ発酵させたもので、主に中国で作られる弱発酵茶です。	白毫銀針(ハコウギンソウ) 白牡丹(ハコウタン)	中国
キチャ 黄茶	白茶よりも長めに発酵させた弱発酵茶で、生産量が極少ない高級茶です。	君山銀針(クザンギンソウ) 霍山黄芽(カザンオウガ)	中国
アオチャ 青茶	白茶や黄茶よりも発酵の進んだ半発酵茶で、烏龍茶でお馴染みのお茶です。	凍頂烏龍茶(トウテイウロンチャ) 武夷岩茶(ブイロンチャ)	台湾 中国
コウチャ 紅茶	茶葉を完全に発酵させた全発酵茶です。	アッサム ダージリン ウバ	インド スリランカ
クロチャ 黒茶	茶葉由来の酸化酵素ではなく、コウジカビや乳酸による発酵を行った後発酵茶で、中国のほか日本でも四国の一部で伝統的製法で作られています。	プーアル茶 碁石茶(高知県) 阿波番茶(徳島県)	中国 日本

一口にお茶と言っても色々種類や特徴があることがおわかり頂けたと思います。一度、ご家庭でも急須で淹れたお茶で、ゆったりと茶談義を楽しむのはいかがでしょうか。

## ＪＡあいち海部のトマト選果施設、イチゴ苗増殖施設が完成しました

ＪＡあいち海部では、本年度の強い農業づくり事業（野菜集団産地整備事業）により整備を進めていたトマト選果施設（弥富市）が平成21年9月に完成し、本格的に稼働を始めた。

同ＪＡのトマト選果施設は1994年に整備されたが、生産者単位での出荷管理ができないことや機械の老朽化もあって、トレーサビリティへの対応や選果作業の効率化が課題となっていた。

このため、今回の事業では、カメラによる自動選別システムの導入と搬送梱包作業の自動化等により選果作業の省力化を図るとともに、生産者ごとの生産出荷データを一元管理し、トレーサビリティシステムの構築を図ることにした。

地元生産者やＪＡは、この選果施設の稼働により安全安心でおいしいトマトを供給し、産地のブランド力を高め、産地拡大と経営安定につなげたいとしている。



検査員による一次選別とカメラ選別



トレーサビリティのための検索コード（上部10桁）

また、12月には地域農業振興事業を活用し、愛西市にイチゴ苗増殖施設を完成させた。当地域は県内有数のイチゴ産地であるが、園芸振興基金協会から供給される優良無病苗を増殖するための地域増殖ほの規模が既存施設だけでは不足し、高品質で生産性の高い生産の基礎となる優良種苗確保が課題となっていた。

今回整備された苗増殖施設は、採苗及び挿し床ハウス計2棟（941㎡）から成り、自動換気・自動給液設備、自走防除施設の導入による省力化を進めながら、年間30,000本（受益面積23.3ha）の苗生産を計画している。

管内の8つのイチゴ生産組合のうち、本施設を利用する4つの組合が新たに利用組合を設立し、ＪＡと共同で管理運営することになっており、ＪＡでは優良種苗の生産体制の整備と併せて、生産履歴管理の取組や出荷単位の拡大を推進し、産地ブランドの向上を図りたいとしている。



イチゴ苗増殖施設全景（連棟：採苗ハウス）

## 世界が注目する革新的な冷凍技術

在京流通行政連絡会では、1月15日、農産物流通に関する視察研修会が開催され、千葉県我孫子市にある株式会社アビーが開発したCAS冷凍技術を視察しました。

CAS（セル・アライブ・システム）冷凍技術とは

一般に普及している急速冷凍は1920年代にアメリカで開発され、現在、広く世界中で利用されています。例えば私たちの口にする冷凍マグロの刺身は遠洋漁業で捕獲あるいは畜養したものを急速冷凍した上で輸送してきたものです。

一方、CAS冷凍技術は、アビーの大和田哲男社長が当時31歳で父の会社を継いだ後に、生クリームを冷凍する機械を研究する中で開発したもので、解凍しても鮮度、風味を損なわない画期的な冷凍技術です。

CAS冷凍技術の原理は、簡潔に言えば「食材に含まれる水分子を磁場の力で振動させて急速冷凍することで、細胞を壊さないまま凍結する仕組み」であります。この技術により肉、魚類は5～7年以上、野菜は3年以上保存できることが分かっています。



CAS技術を説明する大和田社長

### 導入事例

CAS冷凍技術を実際に導入して成功している事例が全国で誕生しています。

#### <事例1>

隠岐諸島の一つである島根県海士町は人口400名余の漁業の島です。特産の「岩がき」は1個1000円の高級ブランド。3～5月のシーズンだけに市場出荷していたがCAS冷凍技術の導入で、周年を通じて鮮度の高い「岩がき」を出荷できるようになりました。

また海士町役場では町の予算でCAS凍結センターを建設し、20名のスタッフを雇用して「白いか」を加工しインターネットで産地直送し好評を得ています。

#### <事例2>

沖縄県大宜味村はシークワシャーの産地ですが、コストの安い船輸送で他県へ出荷しており品質低下が問題でした。そこでCAS冷凍技術の導入により収穫時期以外でも鮮度を落とさず出荷が可能となりました。

#### <事例3>

神奈川県箱根町にある会席料理店では鯛茶漬を客に提供していますが、CAS冷凍技術の導入により風味、食感が新鮮なまま残ることから好評を得ています。また、旅館の仕入れの無駄がなくなりコスト削減につながっています。インターネットでの販売も手がけ

収益の柱に育っています。

#### 海外での CAS 冷凍技術普及

世界 22 か国、1000 の機関が CAS 冷凍技術を用いて研究開発しています。CAS 冷凍技術を用いたアラスカの白子、ノルウエイのウニ、メキシコのマンゴー、アボガドなどが実際にビジネスとして取引されています。

#### CAS 冷凍技術の見学

研究施設の中で、担当者から説明を受け、実際に冷凍保存されている様々な種類の食品の状態を見せていただきました。

CAS 冷凍技術をおこなったコメはマイナス 60 で割れず、解凍して炊飯しても食感はかわらず、べたべたしないとのこと。昨年、麻生首相も来所して 2001 年産のコメを食べていかれたそうです。

傷みやすいイチゴ、桃もそのままの状態でも保存できていました。また、輸入切り花の研究も行っていました。

#### 将来展望

日本の農業は高齢化、農村は過疎化の一途をたどっていますが、大和田社長はこうした限界集落を元気にするビジネスとして CAS 冷凍技術を役立てたいと考えているようです。

また、CAS 冷凍技術で処理した国産農産物を中国へ輸出する事業にも今後取り組んでいく予定のようです。

医学分野でも東京大学を始め 48 の研究機関で CAS 冷凍技術を応用した I P S 細胞、生体肝移植、歯根の保存（30 年）、卵巣保存など様々な研究がされています。また、薬での治療は限界があると認識している医学者と連携して食べ物で病気を治す研究も始めるなど CAS 冷凍技術は分野を超えた様々な可能性を秘めた技術に発展しています。

#### まとめ

CAS 冷凍装置は 40kg 処理できる規模のもので 1 台約 1000 万円。これに急速冷凍機が必要となります。マグロの冷凍で 2 回で 20 トン処理できるものでは 5000 万円必要となり、個人での導入はかなりハードルが高いものとなっています。そのため、過疎地域では行政による資金支援が不可欠となります。

大手百貨店では CAS 冷凍装置を導入して天然本マグロの販売を開始するようですが、資本力のある食品流通での本格導入が先に進むような気がします。卸売市場においても今後、高付加価値化をねらった CAS 冷凍技術が利用される時代もそう遠くないものと考えます。



CAS 冷凍装置の見学



庫内で手に持った磁石が振動



一度解凍して再度保存している花

## 農商工連携ビジネスフェアが開催されました

愛知県産の農林水産物やその加工食品を使った新たなビジネスを生み出すことを目的とした「農商工連携ビジネスフェア(商談会)」を、平成22年1月29日(金)に名古屋市中区丸の内名古屋銀行協会で開催しました。

これは愛知県がこれまでに築いてきた「いいともあいちネットワーク(1)」を活用して生産者と流通関係者の「新たな出会いの場」をコーディネートし、農商工連携による新商品の開発や新たな販路の拡大を図るものです。

フェアには、県産農林水産物及びその加工品を扱う113の企業・団体が出展し、会場は600名を超える参加者(生産者、食品会社、流通関係者)でにぎわいました。

地域でとれた食材を地域で消費する、いわゆる「地産地消」の取り組みは、安全・安心な食材を求める消費者の志向もあり近年注目を集めています。

また、平成20年7月には「農商工等連携促進法」が施行され、地域経済を支える農林漁業者と商工業者が連携して新商品の開発や販路の開拓に取り組む「農商工連携」に関心が集まっています。



会場の様子

愛知県では、平成10年から県産農林水産物の県内消費量を高める取り組み「いいともあいち運動(2)」を推進しており、幅広い業種からなる「いいともあいちネットワーク」を構築し、情報提供や会員間のネットワークづくりを進めてきました。

昨年1月には、いいともあいちネットワークの会員及びいいともあいち運動の賛同者を対象とした「農商工連携交流会」を開催し、商談の結果、小麦・牛肉・豚肉・抹茶等を使った10件の新商品が開発・販売されました。

愛知県が主催する今回の催しは、昨年度の成果を踏まえ、参加者の対象をさらに広げた「農商工連携ビジネスフェア(商談会)」として、ネットワーク会員を始めとする113の生産者、加工業者が農林水産物やその加工品314商品を出展し、県産食材に関心を持つ流通関係事業者等に試飲や試食をしていただくことを通じて、新たなビジネスを模索するきっかけとするものです。

### 1 いいともあいちネットワーク

愛知の農産物の地産地消に取り組む・賛同する機関・団体 729 会員(H21.12.28 現在)  
構成:生産者団体 175、食品会社 92、流通関係者 238、消費者団体 83、行政機関 14

### 2 「いいともあいち運動」

消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支える「運動」  
イート モア アイチ プロダクツ  
Eat More Aichi products = もっと愛知県産品を食べよう(利用しよう)



### 愛知県産農産物

- ・青果（トマト、大根、人参、れんこん、ふきいちご、みかん 等）
- ・おおば（青じそ）加工品（豆腐、ギョウザ、梅酒、パスタ等）
- ・抹茶（西尾茶） 抹茶メロンパン
- ・ぎんなん加工品（ういろ、きしめん、まんじゅう、ようかん、ラーメン、こんにやく 等）
- ・米粉製品（パン、ケーキ）
- ・県内産味噌、醤油、酒、酢、みりん 等



農産物の出展

### 愛知県産水産加工品

- ・絹姫サーモン  
（愛知県水産試験場内水面漁業研究所が品種改良した淡水養殖魚）
- ・ニジマス甘露煮
- ・焼のり、味付けのり、のり佃煮
- ・しらす干し  
（従来品に比べ賞味期限が長い）
- ・魚加工品（干物） 等



水産加工品の出展

### 愛知県産畜産物・畜産加工品

- ・知多牛ビーフカレー、シチュー、味噌煮
- ・名古屋コーチン加工品  
（カレー、ソーセージ、ケーキ等）
- ・うずら卵くんせい、水煮等
- ・猪肉コロッケ、ハム、ソーセージ
- ・鶏卵、牛乳 等

### 流通関係者（コンビニエンスストア等）

- ・地産地消弁当
- ・県産農産物を使用した菓子  
（ドーナツ・シュークリーム等）



畜産加工品の出展

会場は熱気に包まれ、多くの来場者が入れ替わり各出展者のブースを訪れて愛知産農林水産物やその加工品を吟味し、真剣に話しこむ様子が見られました。

## 第 59 回 関東東海花の展覧会が開催されました

日本で最も歴史があり、我が国を代表する花の品評会である「第 59 回 関東東海花の展覧会」平成 22 年 1 月 22 日（金）から 24 日（日）の三日間、池袋サンシャインシティ文化会館で行われました。

この展覧会は、その名のとおり 1 都 11 県（東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡、愛知、茨城、群馬、栃木、岐阜、三重、山梨）が中心となり毎年開催され、当グループも運営のお手伝いをさせていただいています。今年は 1,864 点の“花き”が出品され、オープニングセレモニーでは、神奈川県の松沢知事から、



写真 1：大盛況の会場内

「花は心に安らぎを与えてくれる。神奈川も 150 年前の横浜港開港を契機に、花き生産が活発になった。厳しい時代だが花育に力を入れていきたい。」とあいさつがありました。その後、秋篠宮・同妃両殿下、高円宮妃殿下にご観覧をいただいた後、一般に公開されました。（写真 1）

愛知県内からも 209 点の出品があり、一般公開前日の 21 日に行われた品評会では、14 点で金賞を受賞し、その内の 2 点が農林水産大臣賞（写真 2）を受賞しました。（他に銀賞 22 点、銅賞 32 点）

さて、品評会で部門ごとに分かれた審査員が厳しい目でそれぞれを見比べいく中で、必ず話し合われていたキーワードがありました。

それは、「市場性（商品性）があるか？」

もちろん、品物の状態（病害虫や色の出方、曲がり）、水揚げ状態、下葉処理など、産地から消費地へ輸送され展示するまでの技術や“見せ方”も重要な要素ですが、消費者が好む色、形、など、“花き”の多岐にわたる品目・品種の中で、出展する側の“売るための意識”も問われているということだと思いました。

一般公開で来場されるお客様からも、「毎年来ている。毎年すばらしいお花が展示され、生産者の努力が伝わってくる」、「こんなにたくさんの品種を一度に見ることができる機会はこの展覧会しかないので楽しみにしている。」との声が聞こえました。

この展覧会の展示物には全て産地や生産者の方のお名前がつけられ、日本一の花き生産県である本県の生産者の方々の実力をアピールする絶好の機会です。



写真 2：農林水産大臣賞（きく）田原市 伊藤さん（左側）  
農林水産大臣賞（一般鉢物）愛西市 宇佐美さん（右側）

# 愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

## 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
21年実績	610	370 (61%)	229	209	愛知 (61%) 鳥取 (12%) 高知 (11%)
22年見通し	400	-	330	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>田原市、豊橋市を中心に入荷。                      愛知は、昨年10月から11月にかけて好天が続き生育は順調。                      長崎、徳島等の新しい産地でも好天から品質のよいものが出荷されており出荷量は多めで推移してきたが、年末からの冷え込みで出荷量は減少している。                      入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>若い人を中心に消費量が伸びている品目で新しい産地も出ている。鳥取など特に販売に力を入れている。                      花蕾が細かいもの、軸が太く空洞のないもの、玉のボリュームがあるものが好まれる。                      気温が低下すると出荷量が減るため安定出荷を、また春先にかけて品質劣化が起りやすいため適時出荷をお願いしたい。</p>		

## 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
21年実績	2,634	1,478 (56%)	223	215	埼玉 (16%) 香川 (6%) 米国 (4%)
22年見通し	2,200	-	270	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知が入荷の約5割を占め、次いで埼玉が続く。愛知は低温、干ばつの影響で生育に遅れが見られる。2月には出荷量が回復してくるが、10月の台風の影響で入荷量はやや少ない見込み。埼玉産地は終盤となっているが、低温・干ばつの影響があり小玉傾向。                      入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>ブロッコリーは栄養価の高い食材として消費者の認知度も高く、量販店にとっても年間を通して目玉商品となる商材である。                      本県産は数量もあり、品質面でも高い評価を受けているので、今後とも安定した数量の出荷と品質維持をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋市中央卸売市場

1月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	17年	33,505	208	206	208	209	愛知 30%
	18年	33,680	206	217	202	197	北海道 23%
	19年	32,632	181	181	177	186	静岡 7%
	20年	34,090	206	196	205	217	鹿児島 7%
	21年	34,624	179	186	178	171	
	計	5カ年平均	33,706	196	-	-	-
22年見通し	32,200	216	-	-	-		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知の葉菜、果菜に、北海道の土もの。1月の降雪、冷え込みから葉菜、果菜は出荷は遅れ気味。夏の天候不良、日照不足から土ものは不作傾向。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
だい	17年	2,212	89	83	94	95	静岡 65%
	18年	1,857	115	121	114	108	徳島 21%
	19年	1,786	52	43	56	62	愛知 4%
	20年	1,984	71	63	72	79	千葉 3%
	21年	2,068	63	67	58	66	
	計	5カ年平均	1,981	78	76	79	82
22年見通し	2,000	70	70	70	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>産地は静岡、徳島など。愛知は終了を迎える。静岡は作柄よいが、前月に引き続き供給安定基金の導入で愛知に出荷。神奈川、長崎は1月の冷え込みで玉太りが不足している。入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>							
に	17年	2,297	155	147	151	171	愛知 82%
	18年	2,249	126	125	132	123	鹿児島 15%
	19年	2,917	48	46	46	55	千葉 1%
	20年	2,834	100	86	103	112	熊本 1%
	21年	2,387	95	96	93	98	
	計	5カ年平均	2,537	102	97	102	109
22年見通し	2,500	90	80	90	100		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>産地は愛知を中心に鹿児島、千葉から入荷。各産地とも作況は良好で豊作傾向。前月の冷え込みで出荷は遅れ気味だが、今後は回復する見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

1月22日現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	17年	118,188	230	227	231	千葉 18%	
	18年	118,078	231	243	232	北海道 12%	
	19年	115,881	198	194	198	茨城 12%	
	20年	123,759	234	226	231	愛知 10%	
	21年	124,154	205	213	197	(愛知産比率 10%)	
	5カ年平均	120,012	220	-	-	前年及び本年の	
	22年見通し	116,800	222	-	-	入荷量・価格の動き	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
関東産地からの入荷が中心で、果菜類は西南暖地が増え、土物類は北海道からの入荷となる。関東産地の生育は概ね順調だが、西南暖地に干ばつや低温の影響が見受けられる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	17年	11,761	95	86	102	101	神奈川 62%
	18年	11,342	122	133	112	117	千葉 29%
	19年	11,227	54	48	55	63	静岡 4%
	20年	12,362	78	72	80	84	徳島 3%
	21年	12,120	68	73	64	66	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	11,762	83	82	83	86	前年及び本年の
	22年見通し	10,900	81	80	80	83	入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
関東産地からの入荷が中心となる。各産地ともに年末年始の低温、雨不足で肥大が悪く平年よりL比率が高い。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	17年	6,629	151	136	150	172	千葉 72%
	18年	6,737	136	140	134	134	埼玉 12%
	19年	6,784	53	51	51	59	茨城 9%
	20年	6,880	128	116	131	136	鹿児島 2%
	21年	6,930	113	120	107	111	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	6,792	116	112	114	122	前年及び本年の
	22年見通し	7,100	78	75	75	85	入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
前月に続き千葉を始めとした関東産地からの入荷が中心となる。千葉の生育は順調で肥大は良好である。埼玉は年内の降雨で肥大が良好で豊作傾向。茨城も順調。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	17年	3,144	84	82	86	85	愛知 52%
	18年	3,247	72	74	71	68	兵庫 24%
	19年	2,757	54	49	55	62	長野 10%
	20年	3,214	79	63	78	96	
	21年	2,780	79	77	78	83	
さい	5カ年平均	3,028	74	69	74	79	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,600	80	70	80	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は前月に引き続き愛知中心で、兵庫が出荷量を増やす。台風の影響から小玉傾向。数量は前年より少ない出回りで、価格は高めの見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並みとなる見込み。</p>					<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移。数量は前年より減少傾向、単価は高めに推移している。</p>
キャベツ	17年	2,747	133	154	135	109	愛知 97%
	18年	3,118	93	114	95	69	兵庫 2%
	19年	3,010	51	50	54	47	鹿児島 1%
	20年	3,118	95	77	101	108	三重 0%
	21年	3,236	86	86	80	92	
べっ	5カ年平均	3,046	91	95	92	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	3,000	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心。他に鹿児島、兵庫。春系、冬系とも作柄は平年並み。1月の降雪と冷え込みで生育は遅れており、数量減の見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移。数量は減少傾向、単価は前年を上回っている。</p>
ほうれんそう	17年	570	312	408	276	262	愛知 92%
	18年	602	300	405	304	181	群馬 2%
	19年	493	264	356	198	238	徳島 2%
	20年	457	387	364	394	408	
	21年	527	241	267	199	268	
れん	5カ年平均	530	299	362	273	266	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	470	380	400	400	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心で、他に群馬、徳島。1月の冷え込みの影響で数量は減っている。下旬までは寒さが続き、大きな数量は出ないと予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					<p>数量 (トン) と単価 (円/kg) の推移。数量は減少傾向、単価は前年を上回っている。</p>

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	17年	12,090	71	61	78	79	茨城 60%
	18年	11,570	62	65	62	57	群馬 22%
	19年	9,847	29	24	27	41	兵庫 11%
	20年	11,692	63	46	62	85	愛知 3%
	21年	11,563	62	64	55	69	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	11,352	58	53	58	67	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	11,200	52	40	55	60		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城と群馬からの入荷が中心となる。茨城の生育は順調で肥大良好。群馬の生育も順調で多かった昨年並み。兵庫の生育は低温・干ばつの影響で小玉傾向。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
キャベツ	17年	11,550	138	160	138	113	愛知 60%
	18年	13,060	96	114	96	75	千葉 23%
	19年	12,716	54	53	56	53	神奈川 13%
	20年	13,094	98	81	103	114	静岡 1%
	21年	14,368	88	86	81	100	(愛知産比率 60%)
	5ヵ年平均	12,958	94	97	94	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	13,600	103	100	100	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知と千葉、神奈川からの入荷が中心。愛知の生育は台風、干ばつの影響で少なくなる見込み。千葉、神奈川も低温・干ばつで肥大が遅れている。 入荷量はやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	17年	2,020	373	412	395	308	埼玉 26%
	18年	2,394	322	417	340	207	群馬 23%
	19年	1,900	299	316	275	308	茨城 21%
	20年	1,852	389	429	365	375	千葉 21%
	21年	1,900	289	286	265	332	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	2,013	334	374	329	301	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	1,800	490	580	500	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に引き続き関東産地からの入荷が大部分を占める。埼玉の生育は寒波の影響でやや遅れぎみであるが、今後は回復が見込まれる。群馬、茨城、千葉の生育も概ね同様である。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	17年	981	307	297	303	325	愛知 29%
	18年	849	353	365	346	341	静岡 17%
	19年	901	241	233	239	254	大分 13%
	20年	987	404	353	407	454	群馬 10%
	21年	999	290	306	279	283	
	5カ年平均	943	319	311	315	332	
ぎ	22年見通し	950	300	300	300	300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は、愛知の長ねぎ、静岡、群馬、大分の白ねぎ。愛知は作付面積が若干減少し、作柄も不良で葉折れあり。静岡、大分は生育順調、鳥取も雪による出荷遅れを取り戻し数量を増やす。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。							
し タ ス	17年	1,583	213	211	222	205	兵庫 47%
	18年	1,689	228	280	220	175	静岡 18%
	19年	1,634	218	243	222	176	愛知 13%
	20年	1,505	252	229	243	287	熊本 13%
	21年	1,737	181	190	173	181	
	5カ年平均	1,630	217	231	215	203	
ぎ	22年見通し	1,600	190	200	190	180	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は兵庫中心で他に静岡、愛知、熊本など。小玉傾向で数量は伸びず、M、S主体になると単価も上がらず、厳しい販売環境が続くことが見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年をやや上回る見込み。							
き ゆ う り	17年	1,282	375	404	303	425	愛知 48%
	18年	1,148	391	405	354	417	宮崎 22%
	19年	2,316	221	166	233	276	高知 18%
	20年	1,247	382	545	368	276	鹿児島 11%
	21年	1,197	314	369	263	327	
	5カ年平均	1,438	319	346	293	334	
ぎ	22年見通し	1,250	360	380	360	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
産地は地元愛知と宮崎、高知、鹿児島。作付面積は前年並みで、出荷量は天候・気温に左右される。寒さで芯が黄変するものも出てくる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	17年	4,815	229	207	237	251	千葉 42%
	18年	4,242	298	302	288	302	埼玉 27%
	19年	4,583	145	139	144	154	茨城 12%
	20年	4,931	283	264	272	320	群馬 7%
	21年	4,891	173	190	154	175	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	4,692	225	219	218	240	
ぎ	22年見通し	4,740	230	230	230	230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>前月に続き関東産地からの入荷が中心となる。千葉の生育は回復傾向にあるが前年をやや下回る予想。今後の天候でペト病発生が懸念される。埼玉の生育は概ね良好。入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
し た ス	17年	6,712	217	221	229	200	静岡 34%
	18年	7,177	228	292	221	166	茨城 15%
	19年	7,024	195	219	200	155	兵庫 9%
	20年	7,086	231	208	224	268	香川 11%
	21年	7,859	174	187	160	177	(愛知産比率 4%)
	5ヵ年平均	7,172	208	225	206	193	
ス	22年見通し	6,500	250	270	250	230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>前月に続き静岡と香川中心の入荷。静岡の生育は低温と干ばつの影響で小玉傾向だが、徐々に回復する見込み。香川、兵庫は定植期(11月)の多雨で生育悪く1月の低温、干ばつの影響もあり小玉傾向が続く。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格も前年を大幅に上回る見込み。</p>					
き ゆ う り	17年	4,741	382	405	311	428	宮崎 25%
	18年	4,604	417	443	370	444	千葉 21%
	19年	4,909	330	340	277	391	高知 16%
	20年	5,120	400	578	383	284	群馬 13%
	21年	4,955	350	413	306	340	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	4,866	375	437	329	375	
り	22年見通し	4,900	350	350	350	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		<p>前月に続き西南暖地と関東産地からの入荷が中心となる。宮崎は半促成に切りかわり中旬に出荷ピークの予想。千葉の生育は回復しつつあるが大きなピークはない見込み。高知は作柄が安定しており、平年並みの予想。入荷量は前年並みで、価格も前年並みの見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	17年	499	363	369	352	366	愛知 52%
	18年	478	367	372	364	363	熊本 44%
	19年	576	339	375	322	313	鹿児島 2%
	20年	469	409	494	436	340	高知 2%
	21年	539	319	364	296	298	
	5カ年平均	512	357	393	351	334	
す	22年見通し	500	350	350	350	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		愛知の千両なす、熊本の長なす。愛知は面積減少しており、1月の冷え込みで出荷量は不安定となる見込み。熊本も日照不足で小玉傾向。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。					
ト	17年	982	334	362	330	308	熊本 41%
	18年	967	305	297	309	311	愛知 32%
	19年	940	352	338	342	387	三重 16%
	20年	859	334	336	349	318	岐阜 8%
	21年	884	310	319	302	310	
	5カ年平均	926	327	331	326	327	
ト	22年見通し	870	340	350	340	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		産地は熊本、愛知中心、他に三重、岐阜など。前月の冷え込みで生育は遅れ、着色も進まず出荷は遅れ気味だが、中旬には回復する見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり上回る見込み。					
ミ	17年	208	668	712	647	643	熊本 50%
	18年	209	615	614	600	631	愛知 37%
	19年	190	764	784	751	750	和歌山 11%
	20年	215	716	711	760	681	
	21年	206	689	736	668	662	
	5カ年平均	206	689	710	685	672	
ト	22年見通し	210	650	650	650	650	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/kg		
		産地は熊本、愛知中心。他に和歌山。前進傾向で既に大きな数量が出荷されていること、1月の冷え込みで数量は減少する見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。					

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	17年	2,249	429	438	408	442	高知 58%
	18年	2,222	403	400	407	402	福岡 19%
	19年	2,308	405	439	384	389	熊本 9%
	20年	2,151	439	514	438	385	佐賀 5%
	21年	2,240	378	442	341	358	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	2,234	411	446	395	395	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,100	460	480	470	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に続き西南暖地からの入荷が中心となる。高知の生育は晴天に恵まれ概ね順調。福岡、佐賀は日照不足と低温の影響で樹勢が低下しており、回復は中旬以降となる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
トマト	17年	4,943	363	397	356	332	熊本 33%
	18年	5,044	301	296	301	306	愛知 14%
	19年	4,754	381	358	379	421	栃木 13%
	20年	4,882	355	366	360	341	茨城 6%
	21年	4,954	359	369	344	366	(愛知産比率 14%)
	5カ年平均	4,915	351	357	348	353	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,900	370	400	360	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、栃木からの入荷が中心となる。熊本の着果は良好であり、天候次第で今後は増える見込み。愛知は丸玉が減少しファーストトマトの入荷が徐々に増加してくる。栃木は平年並みの予想。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ミニ トマト	17年	852	623	662	596	605	熊本 30%
	18年	812	612	606	609	625	愛知 27%
	19年	796	732	763	709	718	宮崎 14%
	20年	845	715	746	748	651	千葉 10%
	21年	875	670	756	628	619	(愛知産比率 27%)
	5カ年平均	836	670	707	657	643	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	830	690	720	700	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に続き熊本、愛知からの入荷が中心となる。熊本、愛知とも冷え込みにより生育と着色は遅れている。量的にも例年より少ない見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	17年	395	662	689	618	686	鹿児島 44%	
	18年	401	706	766	678	666	宮崎 37%	
	19年	411	640	764	584	578	高知 19%	
	20年	341	805	729	839	849		
	21年	363	695	816	665	608	(愛知産比率 0%)	
マ	5カ年平均	382	698	753	672	673	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	370	700	750	700	680		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/kg
		産地は高知、宮崎、鹿児島。作付面積は 平年並み。厳寒期で、各産地とも日照不足 により数量出ないため、単価は上昇する見 込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は 前年並みとなる見込み。						
ばれいしょ	17年	3,091	126	123	126	129	北海道 54%	
	18年	3,707	129	128	131	128	鹿児島 33%	
	19年	3,276	120	120	116	124		
	20年	3,640	107	98	104	122		
	21年	3,471	105	115	104	97	(愛知産比率 0%)	
い	5カ年平均	3,437	117	117	116	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	3,200	140	140	140	140		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/kg
		北海道の貯蔵もの中心、長崎も終盤で中 旬には終わり、鹿児島の入荷始まる。北海 道は不作で小出しだが、良好な入荷。鹿児 島は作付面積減少したが作柄はよい。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年 を大幅に上回る見込み。						
たまねぎ	17年	4,963	100	94	102	107	北海道 95%	
	18年	4,701	92	94	87	98	静岡 4%	
	19年	4,219	95	95	95	95	兵庫 1%	
	20年	5,150	74	74	75	74	中国 1%	
	21年	5,947	68	66	75	64		
ね	5カ年平均	4,996	85	83	86	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	5,000	120	120	120	120		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/kg
		産地は北海道中心。作柄不良で残量少な く高値の見通し。静岡は低温で肥大悪く小 玉、傾向。米国、中国からの輸入量が拡大 する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安 かった前年を大幅に上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	17年	1,452	687	712	634	712	宮崎 40%
	18年	1,168	752	830	728	689	茨城 24%
	19年	1,291	679	788	615	621	高知 18%
	20年	1,170	870	875	890	847	鹿児島 15%
	21年	1,155	733	845	709	643	(愛知産比率 -%)
マン	5カ年平均	1,247	740	805	710	701	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,160	670	700	680	640	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>西南暖地と茨城からの入荷が中心となる。宮崎の生育は低温の影響で玉伸びが良くない。下旬以降に増加する見込み。茨城は作付面積も増え、生育も順調。高知の生育は回復傾向にあり今後増加する見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	17年	7,813	112	112	112	113	北海道 69%
	18年	7,470	122	123	122	120	鹿児島 18%
	19年	7,506	114	115	115	111	長崎 13%
	20年	9,348	96	93	96	101	(愛知産比率 0%)
	21年	7,982	108	109	108	108	
いしょ	5カ年平均	8,024	110	110	110	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	7,600	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷が中心となる。北海道は小玉傾向のため入荷量は少なめ。鹿児島県いずみ地区は2L中心で肥大が良く前年並みの出荷予想。長崎は肥大良好であるが上旬で終了の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	17年	9,118	112	105	111	121	北海道 89%
	18年	8,664	104	103	103	105	静岡 8%
	19年	8,589	104	102	105	106	中国 1%
	20年	10,168	85	83	85	87	(愛知産比率 0%)
	21年	9,457	87	84	90	88	
ねぎ	5カ年平均	9,199	98	95	98	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	8,500	123	130	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>春先まで北海道中心の入荷が続く。北海道は在庫量少なく入荷は1割減少する見込み。小玉傾向だが品質は良好である。静岡は低温の影響で肥大が遅れている。また昨年より品質は悪い。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果 実 計	17年	14,060	307	299	316	307	青森 18%
	18年	13,025	304	286	323	307	フィリピン 17%
	19年	10,419	370	364	371	379	愛媛 14%
	20年	12,505	292	277	299	301	愛知 13%
	21年	10,922	315	313	316	316	
	5カ年平均	12,186	315	-	-	-	
	22年見通し	11,200	280	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>みかん、りんご、いちごを中心に入荷。いよかんも出てくる。各品目とも入荷量は潤沢だが、景気低迷を反映して消費は鈍いため、高単価の商品の販売環境は厳しい。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
り ん ご	17年	1,963	287	293	282	283	青森 91%
	18年	2,119	245	243	246	248	秋田 7%
	19年	2,097	259	258	257	262	長野 2%
	20年	2,105	255	251	255	259	
	21年	2,160	209	206	209	214	
	5カ年平均	2,089	250	249	249	253	
	22年見通し	2,100	230	230	230	230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森の「ふじ」を中心に入荷。割れ、小キズなど下級品は減少している。りんごまつり需要はピークを迎え、旧正月の海外需要もあり、引きは強い。入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
い ち ご	17年	1,310	1,141	1,139	1,115	1,172	愛知 57%
	18年	1,200	1,223	1,362	1,239	1,087	熊本 22%
	19年	1,126	1,195	1,269	1,121	1,203	鹿児島 11%
	20年	1,283	1,024	1,275	1,065	850	三重 5%
	21年	1,194	1,003	1,101	957	956	
	5カ年平均	1,223	1,116	1,228	1,099	1,051	
	22年見通し	1,100	1,000	1,100	950	950	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に熊本、鹿児島などから入荷する。1月の冷え込みで2番果の生育が遅れ、上旬が出荷のピークとなるが、集中はしない。下旬は前年より少なめとなる見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並みとなる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果 実 計	17年	44,250	339	331	363	368	愛媛 21%
	18年	43,215	231	309	347	343	青森 18%
	19年	37,958	405	476	374	441	静岡 13%
	20年	43,899	313	296	236	316	フィリピン 10%
	21年	39,363	335	330	339	335	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	41,737	322	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	39,000	320	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>「りんご」、「いちご」中心に「いよかん」「不知火」など晩柑類の入荷が本格化する。「いよかん」は若干小玉傾向であるが色回り食味は問題ない。みかん類はシーズン終盤で徐々に減少する。 入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
り ん ご	17年	5,640	273	271	276	275	青森 92%
	18年	6,632	230	224	232	234	秋田 4%
	19年	5,852	261	271	257	259	長野 2%
	20年	6,470	248	245	251	248	山形 1%
	21年	7,537	201	198	202	205	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	6,426	240	239	241	242	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	7,300	210	220	210	210	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森から「ふじ」の貯蔵もの中心に入荷する。産地在庫は前年より少ない。色合いや密入りの度合い良いが、つる割れ果も見られる。若干小玉傾向。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年やや上回る見込み。</p>					
い ち ご	17年	4,356	1,195	1,187	1,215	1,272	栃木 32%
	18年	4,521	246	1,308	1,298	1,127	福岡 18%
	19年	4,184	247	1,271	1,201	1,263	佐賀 17%
	20年	4,952	61	1,279	1,092	889	茨城 11%
	21年	4,314	103	1,190	1,059	1,065	(愛知産比率 3%)
	5カ年平均	4,465	168	1,248	1,172	1,116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	4,300	50	1,000	1,050	1,100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>栃木中心に佐賀、福岡、茨城などから入荷する。厳寒期に入るが、各産地とも生育は概ね順調である。入荷量に大きな増減もなく、中下旬に向けゆるやかに出荷量が増加すると見込まれる。 入荷量は前年並と見込まれ、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

# 切花・鉢花の2月の見通し

切花（地方卸売市場ヤマエ生花市場 1月25日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	17年	699	53	
		18年	577	63	
		19年	598	55	
		20年	733	55	
		21年	767	42	
	5ヶ年平均	675	53		
22年見通し		750	45		
概要	<p>愛知を中心に沖縄等から入荷。愛知は前年の台風の影響でやや少なめ、沖縄は生育順調で黄系を主に前年並みの入荷。価格はやや少なめの入荷量により引き合いは強めで、堅調な取引展開が予想される。</p>				
小 ぎ	実績	17年	654	29	
		18年	615	29	
		19年	445	41	
		20年	513	31	
		21年	464	34	
	5ヶ年平均	538	32		
22年見通し		500	31		
概要	<p>沖縄を中心に、愛知、静岡等から入荷。沖縄の作付面積は前年並みで、黄系が多く、白系が少なめな生産状況。生育は順調で、前年を上回る入荷量が予想される。価格は需要が少なく入荷が集中すると苦しい動きが予想される。</p>				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	17年	492	43	
		18年	507	42	
		19年	524	38	
		20年	549	41	
		21年	513	33	
	5ヶ年平均	517	39		
22年見通し		515	35		
概要	<p>愛知を中心に和歌山、長野等から入荷。生育は順調だが、全体的に遅れ気味で推移しており、入荷量は前年並みと予想される。価格は需要少なく店頭販売は苦しいが、婚礼需要や後半の卒業式需要により強めの動きが予想される。</p>				
か す み	実績	17年	98	53	
		18年	102	54	
		19年	130	42	
		20年	83	80	
		21年	113	37	
	5ヶ年平均	105	51		
22年見通し		115	40		
概要	<p>和歌山、熊本、高知等から入荷。前月は冷え込みの影響で少なめの入荷だったが、今月は徐々に回復し、前年並みの入荷が予想される。品種は「アルタイル」「マリーベール」中心。価格は前半需要少なく動き鈍いが、後半婚礼・卒業式等需要により引き合い強まる。</p>				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	17年	133	192	
		18年	132	200	
		19年	123	188	
		20年	148	200	
		21年	123	186	
	5ヶ年平均		132	194	
	22年見通し		120	190	
概要	高知、愛知、岐阜等から入荷。オリエンタル系は生育順調で安定した入荷が予想され、てっぼうゆり、すかしゆりは作付面積の減少により入荷は少なめとなる。価格は、需要が少ない前半の動きは苦しいが、後半は需要の高まりから堅調な動きとなる。				
洋 ら ん	実績	17年	284	58	
		18年	234	68	
		19年	200	83	
		20年	238	76	
		21年	235	59	
	5ヶ年平均		238	68	
	22年見通し		235	63	
概要	徳島、愛知、岐阜を中心に輸入ものも入荷。国内産、輸入ものともに気温低下とともに減少する。特にオンシジウム、アンスリウムは少なめの入荷、デンファレは後半より増加。入荷量は前年並み。価格は業務需要の引き合いが強く堅調な取引展開となる。				
ば ら	実績	17年	247	76	
		18年	248	83	
		19年	319	64	
		20年	317	82	
		21年	307	67	
	5ヶ年平均		288	74	
	22年見通し		310	70	
概要	愛知、岐阜、和歌山等を中心に入荷。入荷量は前半気温低下に伴い少なめとなるも、後半は回復し前年並みとなる見込み。価格は前半店頭販売が苦しく軟調な動きだが、後半は婚礼需要等の増により堅調な動きが予想される。				
枝 も の	実績	17年	925	43	
		18年	913	43	
		19年	866	43	
		20年	1,056	39	
		21年	798	39	
	5ヶ年平均		912	41	
	22年見通し		800	40	
概要	長野、静岡、愛知を中心に、山形、岐阜等からも入荷。サクラ、コデマリ、ユキヤナギ、レンギョウ等促成ものを中心に入荷。節句用のハナモモは中下旬に入荷。全体の入荷量は前年並みと予想。価格は、花付花材の引き合いが強く、月を通して堅調な動きとなる。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エリカ	実績	17年	29,340	246	
		18年	26,702	216	
		19年	19,938	249	
		20年	15,939	193	
		21年	14,227	197	
	5ヶ年平均		21,229	225	
	22年見通し		12,000	190	
概要	<p>例年、この月頃から品種も入荷量も減少傾向にある。他品目、特にガーデン商材の花色が多くなってくるので、このエリカにも色幅を望みたい。昨年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位新潟(48%)、2位静岡(33%)、3位長野(10%)となっている。</p>				
プラム	実績	17年	387,761	95	
		18年	454,623	90	
		19年	452,970	99	
		20年	334,570	84	
		21年	364,342	93	
	5ヶ年平均		398,853	92	
	22年見通し		360,000	85	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。ただ、下旬から卒業式等の需要が始まるが、需要自体が減少しており、単価面で厳しい状況が予想される。昨年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(46%)、2位埼玉(12%)、3位三重(7%)となっている。</p>				
チューリップ	実績	17年	112,374	190	
		18年	68,579	240	
		19年	82,034	179	
		20年	98,621	146	
		21年	72,720	152	
	5ヶ年平均		86,866	179	
	22年見通し		70,000	155	
概要	<p>生産量は昨年と変わらないが、入荷量はポットの芽だしものがやや減少し、4号鉢以上は昨年並みか。デフレ等による価格低迷から厳しい状況が予想される。昨年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(46%)、2位埼玉(38%)、3位新潟(6%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	17年	94,383	243	
		18年	79,839	277	
		19年	100,165	242	
		20年	72,994	248	
		21年	69,462	237	
	5ヶ年平均		83,369	249	
	22年見通し		65,000	220	
概要	<p>入荷量は、昨年並みか、やや減少か。下旬から卒業式等の需要が始まるが、需要自体が減少しており、単価面では厳しい状況が予想される。昨年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位埼玉(25%)、2位愛知(24%)、3位三重(13%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	17年	98,323	127	
		18年	68,003	146	
		19年	76,952	173	
		20年	53,881	154	
		21年	65,335	134	
	5ヶ年平均		72,499	145	
	22年見通し		65,000	130	
概要	<p>入荷量は、4号鉢以上は減少するが、3号または3.5号鉢であるポットものが増加し、全体としては昨年並みか。デフレ等による価格低迷から厳しい状況が予想される。昨年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(47%)、2位岐阜(18%)、3位静岡(12%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	17年	61,740	748	
		18年	46,477	841	
		19年	50,411	782	
		20年	47,273	733	
		21年	42,917	733	
	5ヶ年平均		49,764	767	
	22年見通し		42,000	700	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。ただ、デフレ等による価格低迷から厳しい状況が予想される。昨年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(62%)、2位岡山(10%)、3位高知(7%)となっている。</p>				

# 主要農林水産物の輸出入実績(2009年)

## 1 輸入実績

品名	1 1 月						1 1 月 まで の 累 計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	43,011	126.1	4,589,625	109.8	107	87.1	498,388	94	52,304,687	86	105	91.5
トマト	314	168.0	95,401	205.5	304	122.3	2,141	108	573,541	99	268	91.2
たまねぎ	19,306	140.3	731,316	143.1	38	102.0	186,818	101	7,083,182	111	38	109.6
にんにく	1,451	99.7	215,709	152.9	149	153.3	18,206	91	1,823,727	91	100	99.7
ねぎ	3,043	131.1	247,437	114.8	81	87.5	29,393	88	2,979,889	87	101	99.3
ブロッコリー	995	94.8	162,524	87.2	163	91.9	28,627	88	4,650,821	83	162	93.5
結球キャベツ	37	16.6	1,256	19.7	34	118.2	12,862	219	462,471	217	36	99.1
にんじん・かぶ	3,234	180.1	117,998	159.6	36	88.6	39,884	93	2,049,666	73	51	78.7
ごぼう	2,873	82.2	131,275	87.2	46	106.1	33,423	75	1,450,848	64	43	85.3
えんどう	133	411.3	29,356	484.0	221	117.7	856	86	180,454	87	211	101.0
アスパラガス	1,260	94.8	753,139	91.8	598	96.8	9,773	94	5,306,165	84	543	89.5
まつたけ	108	73.0	470,184	83.4	4,335	114.3	1,570	118	6,277,756	94	4,000	79.2
しいたけ	520	142.5	117,729	126.4	226	88.8	3,814	81	891,551	77	234	94.5
かぼちゃ	6,360	132.4	415,771	105.8	65	79.9	88,388	88	5,218,740	68	59	77.5
果実(生鮮・乾燥)	130,471	91.8	14,299,177	79.5	110	86.6	1,857,918	101	210,555,821	91	113	90.3
バナナ	87,852	87.5	5,292,070	68.7	60	78.5	1,166,271	107	87,918,120	106	75	99.6
パイナップル	10,019	108.2	558,388	101.6	56	93.9	130,798	91	8,680,359	98	66	107.9
レモン	3,932	128.4	558,070	129.0	142	100.5	48,793	85	5,709,787	53	117	62.7
オレンジ	1,776	54.9	192,460	62.7	108	114.0	91,584	94	8,929,715	90	98	96.4
グレープフルーツ	9,043	131.3	1,013,298	117.1	112	89.2	168,412	92	14,896,274	87	88	95.3
メロン	1,552	98.8	160,869	92.6	104	93.7	27,653	89	2,745,528	79	99	88.6
ぶどう	966	141.3	243,583	133.2	252	94.3	6,836	103	1,223,565	83	179	79.9
キウイ	1,054	27.0	829,474	43.2	787	159.7	58,501	99	19,651,989	101	336	102.5
いちご	332	87.6	325,612	86.8	981	99.0	2,969	91	2,637,058	79	888	87.7
切花(生鮮・乾燥)	3,018	100.8	2,238,454	96.8	742	96.0	33,971	94	25,026,633	86	737	91.4
鳥獣肉類	118,230	81.9	49,980,284	73.0	423	89.0	1,459,729	82	624,205,759	73	428	89.8
牛肉(くず肉含む)	34,102	88.0	14,077,791	79.9	413	90.8	439,067	96	170,329,411	77	388	80.1
豚肉(くず肉含む)	52,331	82.9	27,417,451	82.3	524	99.3	641,541	78	336,224,862	78	524	99.4
鶏肉	25,610	70.8	4,865,488	37.1	190	52.5	298,900	70	71,236,110	53	238	75.5
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	150,918	103.1	79,167,343	90.3	525	87.6	1,586,683	84	834,357,028	75	526	89.6
まぐろ類	13,470	81.6	10,926,689	97.8	811	119.8	190,677	90	165,594,512	80	868	88.8
さば・さんま・あじ・いわし	12,079	129.7	2,223,277	90.0	184	69.4	91,952	70	15,672,280	61	170	87.7

## 2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	5,143	77.1	1,289,337	72.2	251	93.5	23,250	69	7,029,247	66	302	96.0
うんしゅうみかん	1,390	105.6	144,701	99.6	104	94.3	2,434	71	315,965	67	130	94.0
りんご	3,487	69.0	1,022,258	68.8	293	99.7	16,113	64	4,220,194	57	262	89.3
なし	51	51.8	21,482	61.2	419	118.2	1,664	109	668,744	100	402	91.7
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	151,636	49.9	-	-	-	-	2,704,546	69	-	-
緑茶	163	113.5	287,881	111.7	1,763	98.4	1,770	104	3,106,020	93	1,755	89.2

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

# 関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成17年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	20年平均	101.7	104.7	102.4	106.9	105.5
	21年 7月	100.1	97.0	97.6	105.4	104.4
	8月	100.4	110.4	105.3	105.0	105.3
	9月	100.4	111.3	101.8	105.1	103.6
	10月	100.0	98.5	98.2	104.5	103.1
	11月	99.8	94.5	91.9	104.7	102.1
愛 知 県	20年平均	101.7	100.9	101.6	104.8	104.0
	21年 7月	100.6	96.9	100.4	101.3	104.0
	8月	101.0	109.2	108.7	103.1	104.3
	9月	101.0	110.3	107.3	101.5	102.3
	10月	100.5	100.7	97.4	101.5	105.4
	11月	100.2	95.9	93.2	103.7	101.3

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	20年平均	97.7	94.7	104.8	100.8	101.6
	21年 7月	92.1	98.5	92.4	105.1	100.8
	8月	97.8	98.3	107.8	100.5	99.0
	9月	96.3	99.5	103.4	78.8	98.3
	10月	90.7	96.4	81.1	89.4	98.8
	11月	90.6	97.1	82.3	91.1	97.2

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」  
愛知県・愛知県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、「コシ加」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
20年平均	2,212	150	170	637	420	272	143	331	191	558	605	208	494
21年 7月	2,240	140	161	626	305	320	147	361	199	399	559	184	524
8月	2,240	136	187	663	542	427	210	359	231	487	562	182	708
9月	2,240	166	217	661	465	318	189	372	232	473	759	224	-
10月	2,232	131	154	700	295	320	128	343	205	460	623	212	-
11月	2,232	111	125	660	331	294	109	316	202	531	570	209	459
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg			100g	1 kg		100g	1 本			100g		
20年平均	553	346	408	150	261	669	614	163	172	328	230	824	492
21年 7月	-	296	394	-	254	724	600	150	158	305	219	714	494
8月	-	309	398	-	254	752	611	165	182	318	224	780	487
9月	1,038	332	408	-	239	692	609	163	170	320	220	743	477
10月	530	298	404	-	248	702	588	162	166	323	216	744	484
11月	457	310	398	-	247	738	588	159	166	329	232	752	487

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 440  
平成22年2月発行  
農林水産部食育推進課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6417